

古楽盤を聴く(6)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(6)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回も、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2. 古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

ERATO RE・1075・RE

- トレルリ トランペット、弦楽、オルガンのための協奏曲ニ長調
- 二つのホルン、弦楽、クラヴサンのためのシンフォニア ヘ長調
- 二つのオーボエ、二つのトランペット、トロンボーン、弦楽、オルガンのための
シンフォニア ニ長調
- 弦楽とクラヴサンのための協奏曲 ト長調
- 二つのヴァイオリン、弦楽、クラヴサンのための協奏曲 イ短調
- 二つのオーボエ、トランペット、トロンボーン、弦楽、オルガンのための
シンフォニア ニ長調
- ヴァイオリン、弦楽、クラヴサンのための協奏曲 ハ短調

ジャン・フランソワ・ピヤール指揮ピヤール室内管弦楽団

DECCA SXK 2265

- コレリ 合奏協奏曲 Op.6-8 「クリスマス」
- パッヘルベル カノン (3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーク No.1)

リッチョッティ コンチェルティーノ 2 番

グルック：シャコンヌ

カール・ミュンヒンガー指揮シュトゥットガルト室内管弦楽団

3. 古楽のアナログ盤の試聴結果

ERATO 盤は、RIAA、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。7 曲とも、金管、木管、弦楽、オルガン、チェンバロなどの組み合わせの古楽アンサンブルです。

音はパイヤールの ERATO 盤らしく優雅で、それぞれの楽器も強調感がありません。

金管や木管の質感も上々で、弦楽のパートもソフトです。

DECCA 盤は、DECCA、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

コレッリの合奏協奏曲「クリスマス」は、お馴染みの曲で、クリスマスを楽しむように明るく切れのよい演奏です。

パッヘルベルのカノンは、これもお馴染みの曲で、爽やかな演奏です。

リッチョッティのコンチェルティーノ 2 番は、初めて聴く曲で、明るくさわやかな音での演奏です。

グルックのシャコンヌは、これも初めて聴く曲で、バッハのシャコンヌほど有名ではありませんが、舞曲の様式らしい趣があります。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、それぞれの古楽の表情の再現もあり、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上